

ブロッコリーと水稲の複合経営

部会長として作付拡大と販売額向上を目指す

村田農園（加賀市）

水稲以外の主な園芸作物等

園芸作物導入の経緯等

- ◆水稲の作業時期と重複せず、輪作することでネコブセンチュウなどの連作障害対策にもなり、水稲単作の経営リスク分散のため導入。
- ◆JA加賀にて製氷機付きラインが導入されているので収穫後1～2時間しっかり冷やし選別して氷詰めを行う事で最長10日間、品質を維持したまま保管が可能であるのが強み。
- ◆ブロッコリー19ha、その他野菜2.1ha、水稲10haを栽培。水稲は「かが有機農法研究会」の会員で化学肥料・化学農薬不使用の「加賀のティール」を栽培。
- ◆令和7年度からJA加賀ブロッコリー部会長に就任し来年は自らの作付を30haに拡大予定。



※ イラストはイメージ



これまでの課題に対する対応

- ◆2年前に今まで使用していた農薬に耐性をもったヨトウムシが大量発生したが、駆除できる農薬が見つかり発生を抑え込むことができた。
- ◆今まで発生していなかった病害が突如発生して困惑したが、黒すす病と判明し発生を食い止めた。
- ◆収穫のタイミングが短く、収穫が間に合わず廃棄することがあり複数品種を導入し作期をずらしたことで収穫の安定を図った。

今後の展望等

- ◆安定した労働力を確保するため外国人研修生等を雇用しているが、今後も継続をしてくれるよう、休暇等の福利厚生を充実させたい。
- ◆自らの選果場をつくることができれば、機動性向上・増収へとつながるので建設を計画したい。